

	ご意見	中間報告の施策の分類 ※「中間報告」P11～参照	見解（案）	備考
A	<p>今回スポーツ振興計画について、お役に立てればと思い、メールを送らせていただきました。コメントは以下の通りです。</p> <p>武蔵野市ではいろいろなスポーツ教室を開いているようですが、見たところ平日開催のものが多く、社会人である私にとっては、通いたくても通うことができません。</p> <p>週末開催のものがもう少し豊富にあればいぶん利用しやすくなるのに、と常々思っています。</p> <p>個人的にはテニスを習いたいと思っているので、週末にテニス教室を開いていただけるととても嬉しいです。よろしく願いいたします。</p>	<p>基本施策Ⅰ（２）③ 成人から中高年向けのプログラム等の充実</p> <p>基本施策Ⅲ（１）② スポーツ関連施設の活用</p>	<p>社会人の方々がスポーツに接する機会の充実については、重要な事柄であると考え、基本施策Ⅰ（２）③「成人から中高年向けのプログラム等の充実」を掲げました。各種スポーツ教室の開催日時等も含め、具体的な事業の展開のなかで、より多くの方々に利用していただけるよう努めていきたいと考えています。</p> <p>また、身近な地域でスポーツできる場を確保することを目指し、基本施策Ⅲ（１）「既存の施設や場の活用」を掲げました。</p>	女性
B	<p>スポーツ振興計画案を拝見しました。</p> <p>スポーツ振興事業団を中心として、地域におけるスポーツ活動の積極的な展開について、方向性を示したことは意義深いと思います。国体や、都のスポーツ振興計画の策定が契機になっているところが少々後ろ向き・消極的印象がぬぐい去れないように思います。</p> <p>あまりに言い古されているので、ここに書くまでもありませんが、現代社会においては、インターネット等で情報の取得が簡単になって便利にはなりましたが、自らの身体性を意識することが少なくなるという現象も生じさせています。身体性の欠如から起こされる事件や事故が多いように思います。自身の身体性を取り戻すことは、他者を認識することにもなり、自らの可能性を拓き、社会の一構成員としての自覚を促すことになるかと思えます。そのような意味では、身体性と社会へのまなざしを取り戻すことができるのは、スポーツと文化活動であると考えておりましたので、まずはスポーツ振興計画が策定される予定であることを喜ぶと同時に、将来的に文化振興計画も策定されることを期待したいと思います。ただ、「生涯学習」はえてして個人の学びだけに留まって自己満足的になってしまうところがあります。また、個人の学びであるのなら、税金を投入する必要もないということが言われる余地を生み出してしまう危険性もあるかと思えます。そのような意味では、個人の学びを地域につなげていく視点、地域振興、コミュニティ形成の視点を打ち出すことがあってもよかったように思います。またよく言われることではありますが、高齢者にとってはより充実した人生を歩んでいくための予防医学的意味合いを持つことも、強調してもいいように思いました。</p> <p>ドイツの事例などを見ますと、地域での裾野の広さこそがトップクラスのアスリートを生む土壌になっています。そのときの地域はたんなる、地理的な領域ではなく、人間としてのつながりのできた質的空間やコミュニティを意味しているかと思えます。</p> <p>スポーツや文化は長い目で見た振興施策の展開と評価が重要だと考えています。そのような意味では指定管理者制度の導入は適切ではないと考えています。スポーツ振興事業団は、民間のスポーツクラブではできない専門性とは何かを見極め、それを高め、市民一人一人のニーズに応える不可欠な存在になってほしいと思います。</p> <p>計画を実施に移していくにあたり、以下の点に配慮していただきたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者は、総合体育館に出かけるのも大変なので、身近な施設を全市的に利用したきっかけづくりをしてほしいと思います。</li> <li>2. また、スポーツという言葉だけで、もう自分にはできないものと考えてしまう高齢者もいらっしゃると思いますので、導入部分に配慮が必要かと思えます。たとえばすでに行われているウォーキングの講座などは、健康作りにもなりますし、スポーツとして楽しむこともできます。その橋渡しを上手に考えてほしいと思います。</li> <li>3. 市民が思いついたときに、講座等を実現するための、柔軟な仕組み（助成金、専門的アドバイス等）が欲しいと思います。</li> <li>4. 今後10年の計画ということですが、たんに都が開催する国体を下支えするという意識よりも、スポーツを通じた地域づくりまで視野を広げて、計画終了間近の対応や、評価の仕組みを入れておいた方がいいと思います。</li> </ol> <p>以上</p>	<p>基本理念</p> <p>スポーツ振興計画とは</p> <p>基本施策Ⅳ（２） スポーツによる地域の活性化</p> <p>基本施策Ⅳ（１）① スポーツのもつ魅力の発見</p> <p>基本施策Ⅰ（２）④ 高齢者向けのプログラム等の充実</p> <p>実現化方策Ⅱ（２）② スポーツ障害などの予防</p> <p>実現化方策Ⅱ（１）③ 市、振興事業団、体協、関連機関等の連携</p> <p>基本施策Ⅲ（１）② スポーツ関連施設の活用</p> <p>基本施策Ⅱ（１） 気軽にできるスポーツの普及促進</p> <p>実現化方策Ⅱ（１）① 市民による自主的な取組の促進</p> <p>基本施策Ⅳ（２） スポーツによる地域の活性化</p> <p>実現化方策Ⅰ（１） 市民ニーズの的確な把握・整理</p>	<p>本計画では、基本理念でも掲げているように、地域でのスポーツ振興を大きな柱にしていきたいと考えています。</p> <p>なお、法律や国・東京都の計画等については、それらの内容との整合性に留意しつつ、武蔵野市らしい計画を策定していきたいと考えています。</p> <p>その際には、地域におけるスポーツ振興をつうじて、人と人とのつながりや社会性の獲得、コミュニティの活性化などにもつなげていきたいとの考えから、基本施策Ⅳ（２）「スポーツによる地域の活性化」を掲げました。</p> <p>同時に、スポーツを単なる手段とするだけでなく、スポーツが本来有する魅力である爽快感、充実感、達成感などを実感できるように伝えていくことを目指して、基本施策Ⅳ（１）①「スポーツのもつ魅力の発見」を位置づけ、ご指摘の「身体性」の意識化も含めて広く市民への普及を図っていききたいと考えています。</p> <p>ご指摘の「予防医学的意味合い」については、基本施策Ⅰ（２）④「高齢者向けのプログラム等の充実」のなかで、健康づくりの視点もふまえたプログラムづくりを進めるとともに、実現化方策Ⅱ（２）②「スポーツ障害などの予防」のなかで、高齢者のみならず広く子どもから成人、指導者も含めて対象として考えています。</p> <p>なお、ご指摘の文化振興計画や生涯学習の件については、他の分野の計画にて取り扱うことが相応しいと考えますので、本計画ではコメントを差し控えさせていただきます。</p> <p>スポーツ振興事業団が果たすべき役割については、実現化方策Ⅱ（１）③「市、振興事業団、体協、関連機関等の連携」のなかで、さまざまな団体等と連携しスポーツ振興の推進力として取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>身近な地域でスポーツできる場を確保することを目指し、基本施策Ⅲ（１）「既存の施設や場の活用」を掲げました。</p> <p>ご指摘のとおり、いつでもどこでもスポーツを気軽にできることが大切であるとの考えから、基本施策Ⅱ（１）「気軽にできるスポーツの普及促進」を掲げ、そのなかでウォーキングや自宅でできるスポーツの普及促進を図っていききたいと考えています。</p> <p>市民による自主的な取組を支援していくことも含めて、実現化方策Ⅱ（１）①「市民による自主的な取組の促進」を位置づけました。</p> <p>地域におけるスポーツ振興をつうじて、人と人とのつながりや社会性の獲得、コミュニティの活性化などにもつなげていきたいとの考えから、基本施策Ⅳ（２）「スポーツによる地域の活性化」を掲げました。</p> <p>また、個々の事業の評価にも役立つよう、実現化方策Ⅰ（１）「市民ニーズの的確な把握・整理」を掲げました。</p> <p>なお、国体への関与については、本市で行う予定の競技会を主催するとともに、全市的な歓迎気運を醸成し、スポーツによる地域の活性化を図っていきます。</p>	女性

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な人たちの要望に応えられるように細かい点まで考慮された計画だと思いました。</li> <li>是非実現して欲しいと思いました。</li> <li>各地域に指導者が居ることは大切だと思います。</li> </ul>	基本施策Ⅲ (2) 人的資源の活用	地域でのスポーツ振興に向け、その担い手を育成する必要から、基本施策Ⅲ (2)「人的資源の活用」を掲げました。	女性
	<ul style="list-style-type: none"> <li>一番大変なのは、動くことが嫌いな子どもやスポーツに興味のない大人、生活習慣病の予備軍で体を動かす必要のある人などに対して、どのように興味を持たせ、参加させるかだと思います。</li> </ul>	基本施策Ⅰ (2) ライフステージに応じたスポーツライフの形成	ご指摘のとおり、スポーツするきっかけづくりとその継続が重要であると考え、基本施策Ⅰ (2)「ライフステージに応じたスポーツライフの形成」を掲げ、世代ごとにプログラムの充実を図ることを目指しています。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいスポーツや家庭でできるスポーツなどを広報していくために、地域性が高く、老若男女が集う、各小学校で行われる夏祭りなどのイベントに参加して、実際に観て・参加して・興味を持ってもらうことがよいのではないかと思います。</li> </ul>	基本施策Ⅰ (1) ② スポーツのある風景づくり	身近でスポーツに接することができるよう、基本施策Ⅰ (1) ②「スポーツのある風景づくり」を掲げ、市内のあちこちで様々なスポーツが行われる風景を創り出したいと考えています。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な人に対応するために色々なスポーツを一斉に行うと、どれも中途半端になることも考えられるので、月や季節、年齢層、屋内や屋外で行うなどテーマを決めて、そのスポーツを広く知ってもらい、継続してスポーツを楽しんでもらう工夫をしてみる。</li> </ul> <p>以上 あくまで個人的な意見です。</p>	基本施策Ⅱ (2) ② 一人多種目スポーツの推進	継続していくための取組の一環として、基本施策Ⅱ (2) ②「一人多種目スポーツの推進」では、シーズンスポーツなどの推進を図ることなどをつうじて、さまざまなスポーツを楽しんで行えることを目指しています。	
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆基本方針（4つの柱）は、方針がはっきりしているので、わかりやすかったです。</li> <li>◆キャッチフレーズ（案）                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①changes for my life スポーツをすることで心も体もリフレッシュし、人との繋がりができ始めると思いますが、また達成による満足感で自分の生活（life）そのものが変わる（change）と思えます。それでこのキャッチフレーズを作りました。当初は「changes for your life」だったのですが、yourだと受動的な印象があったので、myにしました。</li> <li>②もっとDoki doki Waku waku スポーツは「する」だけでなく、「観る」という楽しみ方があります。「する側」は（大会等による）緊張による心臓の高鳴りや（やっている）楽しさによる興奮があります。「観る側」はそのプレーに感動したり、自己投影して応援したり、その選手・チームの成功や勝利を願ったりとスポーツは人の心を動かします。その状態を表している擬音語をキャッチフレーズにしてみました。カタカナでは躍動感がなかったので、ローマ字にしました。</li> </ul> </li> <li>※キャッチフレーズの使い方について キャッチフレーズは、市民大会等で使用するのはもちろんですが、施策の中にもあった「スポーツ人材」や「スポーツ指導ボランティア」の人たち向けに（バッジのような）グッズを作り、そのなかにロゴとして組み込み使っていくのがいいと思います。</li> </ul>	キャッチフレーズ	キャッチフレーズについては、本計画の理念を一言で伝えることができるよう、今後も検討していきたいと考えています。その際、ご提案のように、キャッチフレーズを様々な場で使うことで、本計画の理念を広く市民にPRできるようにしていきたいと考えています。また、これまでの策定委員会での議論をふまえ誰にでもわかりやすいキャッチフレーズといたします。	男性
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆中間報告のなかになかったもので、提案したいもの                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①POINTレーシング制の導入 大会等に参加した場合に、ポイントを付与し年間タイトルを決定する制度。レベルや順位によって獲得ポイント数を変えたり、出場回数で平均化したりと実施方法は様々あります。これを住んでいる地域（地区）ごとにもポイントを付与することで、参加者のみならず、地域の中でも話題になり交流ができると思います。</li> </ul> </li> </ul>		ユニークな提案だと思います。今後、参考としていきたいと考えます。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>②スポーツ栄養学・ストレッチング・ウォーミングアップの講座の設置 【スポーツ振興事業団】が行っている「スポーツ健康相談」の中にあると思えますが、スポーツをする方なら誰でも知っておく必要のあることや、競技別・目的別・性別・年齢別のように分けて栄養・ストレッチ・ウォーミングアップについて知っておくことで、けがなどのスポーツ障害の予防効果が期待できます。</li> </ul>	実現化方策Ⅱ (2) ② スポーツ障害などの予防	実現化方策Ⅱ (2) ②「スポーツ障害などの予防」のなかで、怪我や健康面も含めて、正しい知識の普及と相談の場や機会をつくり出していきたいと考えています。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>③情報提供や意見交換ができる環境づくり 現在、市報、HP、ラジオ、CATVなどで情報を発信していますが、果たしてどのくらいの方が見ているのでしょうか。最近ブログやSNSのように情報の収集方法が変化しています。これからはそういった方法で情報を発信・収集する必要があると思います。また、市民相互間の意見交換・情報交換する場が必要だと思います。</li> </ul>	実現化方策Ⅰ (2) スポーツの魅力を伝える情報提供	ご指摘のとおり、情報の受発信の環境は日々変化しており、情報の内容だけでなく、受発信の方法についても必要に応じて改善していくことが求められていると考えています。そのために、実現化方策Ⅰ (2)「スポーツの魅力を伝える情報提供」を掲げ、市民どうしでの情報交換も含めて、誰もが必要な情報にアクセスしやすいよう改善していくことを目指しています。	

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
E	1. 実際に市民に対して、いかに実用的な情報の提供ができるかという事が、スポーツ振興のキーポイントの1つだと思う。現在、市報・コミセンだより等の様々な媒体で、スポーツイベントや各スポーツ団体のPR等の情報に接する機会はあるが、「市内で参加することが可能なすべてのスポーツ」という視点で、すべてのスポーツの種類・イベント・施設・団体等を網羅し、コンパクトにまとめた情報に接する機会はあまりないと思う。 ①色々な年代・性別・ニーズ等に適合したスポーツの提示。…例えば、高齢者向けなら〇〇が最適 ②楽しめるスポーツの種類提示…例えば、スキーなら〇〇同好会・〇月〇日のスキー教室 ③スポーツを楽しめる施設（拠点）の提示…例えば、卓球なら〇〇や〇〇で可能（地図上に各施設が表示されていると分かりやすい） ④イベント情報の提示…年間イベント情報（ファミリースポーツフェアやスポーツデーなど）や各地域のスポーツ行事 以上のような、総合的な情報に接する機会があると、ライフスタイルに合わせた、身近な既存施設を利用しての、継続可能なスポーツを楽しむきっかけに繋がると思う。	実現化方策Ⅰ（1） 市民ニーズの的確な把握・整理  実現化方策Ⅰ（2） スポーツの魅力を伝える情報提供	ご指摘のとおり、スポーツに関する情報について、市民のニーズをふまえた情報提供が重要であると考えています。 そうした観点から、実現化方策Ⅰ（1）「市民ニーズの的確な把握・整理」では、定期的な市民ニーズ調査や各イベント会場等でのアンケート調査等を実施したうえで、市民ニーズに応じた情報提供を進めていくために、実現化方策Ⅰ（2）「スポーツの魅力を伝える情報提供」のなかで、必要とされている情報を整理し、分かりやすく、容易に利用できるよう努めていきたいと考えています。 ご提案のような、スポーツに関する総合的な情報をコンパクトにまとめた「情報誌」やホームページ等による情報媒体のあり方について検討したいと考えます。	女性
	2. 市内の各施設（コミセンや学校など）を利用してスポーツを楽しんでいる人を目にする機会も多いが、「知る人ぞ知る、いつもの場所で、いつもの顔ぶれが…」というクローズドなコミュニティとなりがちである。すでに出来上がっているスポーツコミュニティに、縁故のない新しい人が入るには、勇気が必要。「新しい参加者ウェルカムデー」のようなものを設定するなど、ひと工夫必要だと思う。	基本施策Ⅰ（1）④ 誰もが楽しめる機会の充実	初めて参加する方が参加しやすい環境づくりに向けて、基本施策Ⅰ（1）④「誰もが楽しめる機会の充実」のなかで、ご提案の「新しい参加者ウェルカムデー」のような仕組みについて参考としていきたいと考えています。	
	3. 特定の種類のスポーツに関して、一定の技能や知識を持ち、地域での活動実績がある人を「武蔵野市の地域スポーツリーダー」として公認する事は可能だろうか。	基本施策Ⅲ（2） 人的資源の活用	特定のスポーツということであれば、現在体育協会には35のスポーツ・レクリエーション団体が加盟し、市民ニーズに応じ、地域での活動を行っています。また、スポーツ指導員として164名の方が市民へのスポーツ指導を行う制度があります。このことについて、市民へのPR不足もあろうかと考えられますので、体協とも協議し活用するよう努めてまいります。地域での担い手づくりや表彰制度については、基本施策Ⅲ（2）「人的資源の活用」のなかで位置づけており、市に登録することを考えています。	
	4. 現在、市民のスポーツに関するニーズは、どの程度把握されているのだろうか。「市政アンケート」等を利用して、「今、しているスポーツ」「将来したいスポーツ」「欲しいスポーツ施設」などを調査する事は可能だろうか。	実現化方策Ⅰ（1）① 市民ニーズの把握	今回の中間報告では、平成19年度に実施した「武蔵野市スポーツ市民意識調査」の結果をふまえて計画の方向性や方針を検討していきたいと考えております。	
	5. VI 基本理念のキャッチフレーズ案「人も地域も元気に！」は、斬新さに欠け、記憶に残りそうにないと思う。公募するか、関係者から広く募ってはどうか。	キャッチフレーズ	キャッチフレーズについては、市民の声も聴きながら今後とも策定委員会で検討したいと考えています。	
F	スポーツ振興計画（仮称）の中間報告を拝見しました。大変よく考え練り上げられた報告だと思いました。この中で、スポーツ功労者表彰の制度を設けようという項目について意見を述べたいと思います。 この新しいスポーツ功労者表彰制度には、賛成します。 東京とは、国体開催そしてオリンピックの開催に向けて招致運動をしています。三鷹市はアーチェリーの国体競技地になっています。この三鷹市には全日本で優勝し北京オリンピックの候補選手になりました選手がいます。選手は、武蔵野市の弓道場 小金井公園の弓道場などで練習されてきた方です。という仕事をしながら、練習を重ね 全日本でトップになりました。これは40年も前から東京都のアーチェリー普及のために尽力されました 市アーチェリー協会の先生の努力のたまものだと私は考えています。市に在住する先生はアーチェリーの数少ない1級審判員の資格を持ち、初心者講習 ルールについての講演を長年続けてこられた方で。私は、先生こそがスポーツ功労者として表彰されるべき人物だと思えます。 現在、体育協会の主催するスポーツ功労者表彰制度がありますが、推薦されるのも表彰されるのも協会内の人物がほとんどです。広い視野に立ち武蔵野市に住んでいる真のスポーツ功労者を表彰すべき制度が必要だと考えます。 策定委員の皆様には、検討の程 宜しくお願い致します。	基本施策Ⅲ（2）③ 市民スポーツ功労者の表彰制度の創設	基本施策Ⅲ（2）③「市民スポーツ功労者の表彰制度の創設」の趣旨は、競技スポーツにおける成績にとらわれず、また武蔵野市全体のみならず地域において草の根的にスポーツの振興に貢献された人や支えてこられた人を表彰することにより、地域でのスポーツの活性化を促そうとするものです。 なお、どなたが表彰に相応しいかについては、別途「要綱」等を定めたいと考えています。	女性

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
G	<p>策定委員会の皆様には、今回の報告書を作成するにあたってさまざまにご尽力いただき敬意を表します。今まで、このような体系的にまとめられた計画をあまり目にしたことがなかったため、武蔵野市のスポーツの全体像がよくわかりませんでした。</p> <p>さて、この報告書を拝見して、気がついた点について2、3意見を述べさせていただきます。</p> <p>(1) サークルや団体について組織されていない人たちの参加の機会をどのようにつくるのか</p> <p>たとえば、私の住む団地では高齢者の人たちが多く居住されていますが、敬老会等にも参加せず、ひとりで毎日を送っている高齢者の人もいます。そのなかで、人と接することなく認知症が進んでしまうケースがあります。こうした場合、体力がなくても観るスポーツや盆踊りのような動きがゆったりしたダンスで脳を刺激することで少しでも認知症を進むのを防止できるのではないのでしょうか。</p> <p>またサラリーマンは、帰宅してからも忙しくスポーツをする機会はなかなか見い出せませんが、NHKの深夜放映されていた「サラリーマンNEO」の番組でのサラリーマン体操等、これがひろまればおもしろいし、運動不足も少しは解消できるのではと思います。ちなみ私は通勤時の階段ののぼりおりを実践中です。</p>	基本施策Ⅰ(2) ライフステージに応じたスポーツライフの形成	<p>ご指摘のとおり、年齢や仕事、さらに子育て等の生活環境によってスポーツに接する機会の少ない方々に対して、どのようにしてきっかけをつくっていくのかということが、本計画での課題のひとつであると考えています。</p> <p>そのために、基本施策Ⅰ(2)「ライフステージに応じたスポーツライフの形成」を設けて、世代ごとにスポーツに接する機会が拡充できるよう策定したいと考えています。</p>	女性
	<p>(2) ストリートスポーツもスポーツのひとつととらえること</p> <p>スポーツをするとは体育館や競技場ばかりでなく、道（車が通らない）での遊びに近いスポーツも位置づけることが必要だと思います。団地の中の住棟間をうまく利用して子どもたちはよく走りまわったりしています。時々騒々しいとおこられはしますが、とかく自動車がひんばんに走って人はその道から追い出されてしまいましたが、まだまだ残る生活道路の活用で運動能力は養えます。りっぱな施設を建設することばかりでなく日常生活の空間をうまく利用する技も検討すべきでしょう。</p>	基本施策Ⅲ(1)① 身近な公園や道等の活用	<p>身近な公園や道を活用し、子どもたちの屋外遊びとともに、散歩やウォーキング等をスポーツとして位置づけ、基本施策Ⅲ(1)①「身近な公園や道等の活用」を設けました。</p> <p>ただし、道の活用については、あくまでも自らの安全を確保できることが前提となります。</p>	
	<p>(3) 地球上にはそれぞれの国から発祥した独特のスポーツがあることを知り、国際感覚を養うチャンス。</p> <p>市民の中や、市役所の職員の中に珍しいスポーツを経験した人が多いときいています。（クリーンセンターにはラククロスを大学でしていた人がいます）</p> <p>まだ見たことがないようなマイナースポーツからも学ぶことはたくさんあります。世界各国の珍しいスポーツを観戦したり体験することで、感性を養い、そのことから相手の国を理解し、「平和とは何か」の想いを深めることができれば、毎日が「オリンピック」ではないでしょうか。</p> <p>アスリートのスポーツを観てあこがれを抱きそれが動機で自分自身もスポーツを始め頂上をめざすこともひとつの道ですが、スポーツ観戦を通して「ルール」を感じ、日常生活をする上でもルールが大切であることが学べることで、勝敗にこだわることもひとつだが観戦のあとのさわやかな気分を共感することもスポーツの目的のひとつだと思います。</p> <p>武蔵野市のスポーツ振興計画の理念の実現に期待するものです。</p>	基本施策Ⅰ(1)④ 誰もが楽しめる機会の充実	<p>ご提案の内容については、基本施策Ⅰ(1)④「誰もが楽しめる機会の充実」のなかで、スポーツをつうじた国際交流の実現として、市内在住の外国人の方々等との交流を目指していきたいと考えています。</p> <p>また、スポーツイベントなどの機会に普段あまり接することの少ないスポーツの紹介や体験のコーナーを検討します。</p>	
H	<p>私も学生時代から会社に入ってもスポーツをしてきました。結婚をきっかけに出来なくなりました。</p> <p>でもスポーツが好きだったので子育てしながら又スポーツをはじめました。ところが年令的にきつくなりはじめました。でも健康に自身がなくなり体育館に通い半年間がんばりました。今は食事に気をつけるだけになってしまいました。気軽に出来る場所があると良いと思います。</p>	基本施策Ⅱ(1) 気軽にできるスポーツの普及促進 基本施策Ⅲ(1) 既存の施設や場の活用	<p>ご意見のような環境の方々はいらっしゃると思います。結婚や子育て、仕事等により、スポーツする機会をつくりづらい方々にも、気軽にスポーツに接してもらえよう、基本施策Ⅱ(1)「気軽にできるスポーツの普及」では、自宅でもできるスポーツを位置づけるとともに、基本施策Ⅲ(1)「既存の施設や場の活用」では、身近な公園や道等の活用を目指しています。</p>	女性
	<p>中間報告を見て、良くわかってないですが、＜現状＞が書いてあって、＜課題＞があってそのあとに後で書かれたる具体的な施策を書いた方がわかりやすいです、項目が多すぎてわかりにくいです。</p>		<p>本計画ではスポーツ振興を総合的に体系化するために、さまざまな施策を網羅し整理しているので項目が多くなっていますが、計画書では頁レイアウト等を工夫することで、分かりやすく記述したいと考えています。</p>	

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
I	<p>近年、国内では総合型地域スポーツクラブという言葉が聞くことが多くなってきていると思います。</p> <p>総合型地域スポーツクラブとは、文部科学省が提唱している通り、①子どもから高齢者まで（多世代）、②様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、③初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域における住民意識や連帯感の高揚、世代間の交流、少子高齢社会への対応、地域住民の健康・体力の保持増進、地域の教育力の回復、学校運動部活動と地域との連携など、豊かなスポーツライフ創造のため、また、地域のコミュニティの核となるもので、誰もが気軽にスポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現に向けた新しいアプローチです。</p> <p>この総合型地域スポーツクラブは、『武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）中間報告』の基本理念にもある「人」、「地域」の視点からのスポーツ振興、充実したライフスタイルの構築を実現できるものだと考えます。</p> <p>現在、国内には多数の総合型地域スポーツクラブが設立されていますが、上述するような総合型地域スポーツクラブとしてあるべき姿を持った組織・地域というものはまだまだ少ないと考えています。</p> <p>しかしながら、武蔵野市にはトップレベルのチームもあり、競技場などしっかりとした施設もあり、ヨーロッパのような本来の総合型スポーツクラブを作っていける環境があると思います。</p> <p>週末には家族でスポーツクラブへ行き、そこで家族それぞれが好きなスポーツをおこない、それぞれの練習、試合のあとにクラブハウスに集まりその日の活躍について話をする。また、ある週末には家族で、時々クラブで教えてもらっている選手のいるトップチームの応援に行き、地域での一体感を感じる、そういった“人も地域も元気に！”なる総合型地域スポーツクラブを創出して頂ければと考えています。</p> <p>そして将来的には武蔵野市が、日本における総合型スポーツクラブのモデルとなることを願っています。</p>	<p>基本施策Ⅲ（1） 既存の施設や場の活用 基本施策Ⅲ（3） 現行プログラムを活かした工夫 基本施策Ⅳ（2） スポーツによる地域の活性化</p> <p>基本施策Ⅳ（2）③ スポーツをつうじた元気な地域づくり</p>	<p>武蔵野市には、スポーツが可能な施設や場が各所に整備されており、また子どもから高齢者までスポーツに関するプログラムが多数実施されています。こうした既存の資源の有効活用を進めていくことを基本としていく考えから、基本施策Ⅲ（1）「既存の施設や場の活用」、基本施策Ⅲ（3）「現行プログラムを活かした工夫」を位置づけて、スポーツ振興を図っていききたいと考えています。また、スポーツ振興をつうじて地域コミュニティの活性化も図っていききたいとの考えから、基本施策Ⅳ（2）「スポーツによる地域の活性化」を掲げ、地域での人々の交流等の促進を図っていききたいと考えています。そこでは、スポーツクラブに併設されているクラブハウスといった限られた空間での交流というよりも、さらに広がりのある街中でのスポーツをつうじた人々の交流を目指していききたいと考えています。</p> <p>こうした施策の展開が、道路・公園等の都市基盤が整備され、良好な住宅地や商店街が形成されている武蔵野市らしいスポーツ振興計画のあり方であると考えています。総合型地域スポーツクラブが掲げる理念を武蔵野市に適した内容で、武蔵野市らしさを大切にしながら実現していききたいといった考えが基本にあります。</p> <p>なお、総合型地域スポーツクラブについては、ご指摘のとおり武蔵野市を拠点とする企業によるトップレベルのチームが存在することから、こうした企業との連携等も含めて今後、武蔵野市ならではのクラブ像を全国的な傾向、設置状況の推移をふまえながら検討していききたいと考えています。また、こうした内容を基本施策Ⅳ（2）③「スポーツをつうじた元気な地域づくり」のなかに位置づけていききたいと考えています。</p>	男性
J	<p>境地域の今後を考える</p> <p>私は永い間地域でボランティア活動に参加し、小さい子どもからお年寄りまで、沢山の人々とかかわって来ました。</p> <p>そして今思うこと、子どもの数が減少したのとは反対に、高齢者が元気でいろいろな所へ出かけ、スポーツを楽しんでいることです。</p> <p>現在の市民会館の後ろに体育館があったことを覚えている人は少なくなったかも知れません。その頃毎日のように利用していた年代が私達で、前期高齢者です。選挙の投票所にもなっていました。古くなり建て替えると聞いていましたが、その話は消えてしまい、今、駐車場、駐輪場として使用されています。</p> <p>「生涯元気で楽しく過ごしたい」が私達の願いでもあります。しかし今、体を動かしたい、何かスポーツをしたいと思っても、市営陸上競技場や体育館、又はプールへ行くには少し距離もあり、足が遠くなっているのも現状です。地域で30年以上も続いている親子運動会も雨が降ると延期もできず、中止を余儀なくされます。境地域にはコミセンもなく、スポーツどころか、その打ち合わせ等をする場所も限られ、早い者勝ちで次を申し込む状況です。南口に予定されている武蔵野プレイスにも体育館作りの要望があったことを覚えています。</p> <p>子どもも、その親達も、そして私達もバスや電車に乗ることもなく、近くでみんなが集える場所、健康作りで楽しめる体育館等があったら考えるだけでも楽しくなってきませんか？</p>	<p>基本施策Ⅲ（1） 既存の施設や場の活用</p>	<p>市内の各地域に体育館を整備することについては、長期計画や財政的な観点等も含めて広い視点からの検討が必要であると考えています。</p> <p>新たに施設を整備するだけでなく、既存の施設の活用や機会の拡充を図っていくことが、少子高齢化が進み社会が成熟していくなかでの基本的な方向性であると考えています。</p> <p>こうした考え方から、基本施策Ⅲ（1）「既存の施設や場の活用」のなかで、①「身近な公園や道の活用」とともに、②「スポーツ関連施設の活用」、③「地域の学校・民間企業等の活用」を位置づけ、子どもから高齢者まで身近な場所でスポーツをする場や機会が確保できることを目指していききたいと考えています。</p>	女性

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
K	<p>計画はたいへん良いと思いました。賛同いたします。 この計画についていくつか検討の材料になればということで2点感想を述べます。 計画に掲げられている人材・施設等の地域の資源を活用することは、とても大切なことだと思います。</p> <p>1) 行政地域にこだわらず生活圏に合わせたスポーツ振興を行なう。 地域とのかかわりが計画では触れられていますが、行政における地域と生活地域は必ずしも一致しません。 武蔵野市の図書館が近隣の市区とサービスを共有したり、ムーブスの路線も市外に延長しているといった現状もそれを端的にあらわしています。 だからといって市町村合併をすれば、行政地域が生活地域と一致されるというものでもありません。 武蔵野市のスポーツをとっても、総合体育館の利用は実態としては市外の利用者が多いのではないのでしょうか。現在は、利用料に格差を設けて市民との差別化をはかり、そして講座への参加者は在住・在勤に限られています。 スポーツ振興においても、近隣地域でのサービスの相互乗り入れは今後検討の課題になるのではないのでしょうか、それは市民サービスの向上につながるのではないかと思います。 総合体育館を中心とした事業は、総合体育館の圏域の市民・区民（一般利用）の利用が中心で、利用層が固定化してしまっているきらいもあるようです。 近隣市で施設や企画事業等の対象をお互いに広げることが可能であれば、公共施設だけではなく、民間のスポーツクラブ等の委託事業などもいくつかの自治体が経費を負担したり、人材の派遣や機材の提供を外郭団体、民間企業も巻き込んで実施したり、参加者が通いやすい地域の施設を利用することも可能でしょう。 地域をもう少し広域に捉えたり生活圏を考えたサービスができないかも今後の検討課題にあげられるのではないのでしょうか。</p>	<p>基本施策Ⅲ (1) ③ 既存の施設や場の活用</p>	<p>スポーツ振興計画における市内の地域エリアのとらえ方については、12小学校区、6中学校区、3駅勢圏及び全市で区分されることを基本に、地域ごとのスポーツ関連施設等を検討したうえで、基本施策Ⅲ (1) 「既存の施設や場の活用」を掲げ、公園や道路なども含めて、身近な地域でスポーツすることが可能となるように施策を方向づけました。そのなかで、民間スポーツクラブとの連携については、③「地域の学校・民間企業等の活用」のなかで、現在実施している取組を拡充していく方向で考えています。 そのうえで、ご指摘の、市外も含む生活圏のエリアや近隣市区との連携については、今後、近隣市区と武蔵野市の施設を相互に利用できる対等な関係を基本として、その実現性を研究していきたいと考えます。</p>	<p>男性</p>
	<p>2) スポーツ振興は、健康づくりや様々な要素を含んでいるが、競技スポーツのレベル向上もはずせない。 計画全体を読んで最後にふと感じました。 スポーツの振興は、健全な身体と精神を育て、健康づくり、維持管理にも大切で、強い精神力や社会性を身につけることにもつながり、いろいろな総合的、複合的な成果を期待できます。誰もがスポーツに参加すればいいし、そのレベルも様々でかまいません。 そのために市民の裾野を広げていくスポーツ振興は重要な施策です。 しかし、スポーツには、もともとの根っこには、そのスポーツへの愛情や挑戦という競技スポーツとしての流れがあるのだから、健康づくりだけがメインではなく競技スポーツとしてのスポーツをもっとうたってもいいのではと思います。 武蔵野市やこの地域のチームや個人が競技スポーツで秀でた成績を収められれば、それはそのスポーツに関わる人たちの励みにもなるし、新たなスポーツ人口を増やすことにもなり、地域の誇りにもなるのですから。そして、地域の交流や全国の交流にもつながっていくものです。競技スポーツへの入口とレベルアップへの支援を行なっていくことも大きな柱ではないのでしょうか。</p>	<p>基本施策Ⅱ (2) ステップアップできる機会の創出</p>	<p>本計画では、メダリストの輩出というよりも、広く市民によるスポーツの振興を基本としていることはご意見のとおりです。 ご提案の競技スポーツへの入口とレベルアップへの支援については、基本施策Ⅱ (2) 「ステップアップできる機会の創出」のなかで、今後検討していきたいと考えます。また、観るスポーツ・アスリートにふれる機会の拡充などを通して競技スポーツの魅力に接することを考えています。</p>	

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
L	<p>&lt;日常的な「場」の視点・その充実と向上を&gt;                      今回の計画を策定する上で、ぜひ取り入れていただきたいのが、安全で快適にスポーツを楽しめる、体を動かしたくなるような「場」の視点であり、様々な年齢層の市民がスポーツに親しみ、日常的に楽しめるような「場」を充実させ質的に向上させていくという取組方針です。                      小さな子どもからお年寄りまでが、自分から進んで、自らの楽しみとして、体を動かして遊びたいような場を作っていくこと、公園や校庭といった既に身近にある場を質的に向上することで、「なんだか自然に体を動かしたくなる場」を整備提供する、これによって全市的なスポーツの振興を図っていくというアプローチをぜひ積極的に取り入れて頂きたいと思います。                      私たちのNPOでは、公園や学校校庭を芝生化することで、この課題を実現することを目指して活動しておりますが、現在私たちが、ごく小さな面積ながら取り組んでおります、市役所南のむさしの市民公園の芝生スペースでも、またこれまでに何度か参加させて頂いた陸上競技場の芝生の上でのスポーツイベントなどでも、そのような効果をはっきりと感じます。                      広々とした芝生の上に子どもたちを連れて行くと、大人が何も言わなくとも自ら走り出し、転げ回って遊びます。自分たちから裸足になって「気持ちいい～！」と歩いて走り回る子もいます。芝生の上では転んでも痛くない、怪我の心配がなくて安心ということをすぐに理解するのか、あるいは単に気持ちがいいからかのびのびと、体全体を使って遊びまわります。固く踏み固められた土の上と、青々とした芝生の上では、子ども達の動きがはっきりと異なります。これは子どもだけでなく大人にも共通して言えることで、安全で、快適で気持ちのいい空間があれば、人は自ら体を動かしたくなる衝動を感じるものだというのが、私たちの経験則です。                      確かに、「土のグラウンドでもスポーツは出来る。土で転んでひざをすりむくのは当たり前、そうやって根性を鍛えるのだ。我々は皆そうやってきた。」という意見もあるでしょう。しかし、そのような「スポーツ＝汗と泥にまみれた鍛練・根性」という考え方を、私たちはそろそろ見直すべきではないでしょうか。「スポーツは、安全で快適な場所で、楽しみのためにやるもの」という視点が、これから生涯スポーツの振興を図る上では非常に重要だと思います。そうであってこそ、生涯を通じて、スポーツに親しみ継続していくことが出来るのだと思います。そのためには、日常的に容易にアクセスできる「場」の質的な向上と充実が必要なのです。                      グラウンドを芝生にというのと、とかく「サッカーにはいいが野球には向かない」などと言われますが、問題はそんなことではありません。サッカーか野球かといった区別を超えて、すべての子ども達のためにはどのようなグラウンドが望ましいかを考えるべきなのです。サッカーや野球をやっている子達、すでに運動や体を動かすことが好きな子達はまだいいのです。彼らは土のグラウンドの砂埃や擦り傷も黒い汗も気にせずに遊びます。（しばしばスポーツ障害に悩まされるという問題はありますが）。芝生にすることの恩恵を最も受けるのは、そうした子ども達以外の、休み時間を教室や廊下で過ごしている子ども達なのです。                      &lt;スポーツは安全で快適で気持ちのいい空間で&gt;                      私たちは、適切に手入れがなされた運動スペースの芝生というのは、快適な温度に調整され、透明で澄み切ったプールの水のようなものと考えています。濁ってぬるくなった水でも水泳することはできます。後でしっかりと目を洗うがいすれば健康的にも問題はないでしょう。しかし、人々が水泳を楽しみたい、水に浮かんだり、歩いたりするだけでも気持ちいい、だから日常的に足を運びたいと感じるのは、やはり快適な温度できれいに澄んだ水なのではないでしょうか。グラウンドにしても同じことです。走り回っただけで砂塵が舞い上がり、靴やパンツの裾は白茶けた埃にまみれ、額からは黒い汗の筋が流れる、転倒すればよくて擦り傷、手の付き方が悪ければ骨折してしまうようなグラウンドよりも、青々とした芝生の上でこそ、大人も子どもも思い切りスポーツを楽しめるのではないのでしょうか。                      そうした、安全で快適で気持ちいい、人々が自然と体を動かしたくなるような場を、すべての市民が気軽に歩いていける距離につくる事が出来れば、武蔵野の生涯スポーツは自ずから振興し、子どもたちの体力も間違いなく向上し、武蔵野のスポーツ文化も大いに発展することと思えます。                      今回のスポーツ振興計画にこうした視点と指針が取り入れられ、武蔵野市のスポーツ環境、スポーツ文化が大いに発展する契機となることを、心より願っております。</p>		<p>ご意見にあります「安全で快適にスポーツを楽しめる、体を動かしたくなるような「場」の視点」、「様々な年齢層の市民がスポーツに親しみ、日常的に楽しめるような「場」を充実させ質的に向上させていくという取組方針」については、重要なことであると考えます。                      また、芝生化は、スポーツ振興にとって有意義であると考えられます。                      その「取組方針」の具体的提案が、「公園や学校校庭を芝生化する」ということだと受けとめますが、ご意見の「取組方針」を実現させていくために、「芝生化」だけでなくその他の施策等も含めて、市民ニーズや経費、維持管理面等からも研究していきたいと考えます。                      なお、校庭については、学校施設としての考えや使い方、維持管理を考慮しなければなりませんので、学校からの相談に応じていきます。</p>	男性

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
M 1/4	<p>中間報告の策定、お疲れ様でした。報告を読ませていただき「感じたこと」と「ご提案」をお送り申し上げます。</p> <p>【全体的な感想と意見】</p> <p>1. 中間報告には「具体案」が示されていない。スポーツ振興に関する課題は列挙され、検討すべきテーマは示されているが、それらを解決し実現するための具体的な施策・提案はほとんど示されていない。</p>	基本施策 実現化方策	基本施策および実現化方策のなかで、施策の体系を整理し、個々の施策の方向性を提起していると考えます。今後、個々の施策に対して事業レベルでより本計画の内容を具体化していきたいと考えています。	男性
	<p>2. 哲学、ビジョンが明記されていない。なぜスポーツ振興が必要なのか。その哲学・根拠が示されていない。スポーツ振興で導かれる未来像、将来ビジョンを明確にする必要がある。</p>	基本理念	ご意見の「哲学」的な内容については、基本理念で提起していると考えます。	
	<p>3. 社会的意義（社会を変える効果）の視点が欠けている。スポーツ振興の意義が、「個人」の豊かさをもたらす目的を主に語られている。市の施策なのだから、個人とともに、「社会（市）全体」の活性化や社会をどう改革・再生するかを主眼とすべきではないか。「スポーツは、社会全体の活性化に大きな役割を果たす潜在力を持っている」という視点と認識が欠落している。</p>	基本施策Ⅳ（2） スポーツによる地域の活性化	ご意見の「社会（市）全体」の活性化については、基本施策Ⅳ（2）「スポーツによる地域の活性化」で提起していると考えます。	
	<p>【具体的な提案】</p> <p>1. 武蔵野野市民のスポーツライフの核となる《統合型スポーツクラブ》の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆市民が一体になれるスポーツの母体づくり</li> <li>☆武蔵野市を代表し、市民がこぞって参加できる、統合型スポーツクラブの運営             <ul style="list-style-type: none"> <li>・すでにNPO法人『武蔵野スポーツクラブ』がその志をもって創設され、活動を始めています。市はそのNPOと連動し、そのNPOは広く市内の人材を募って開かれた組織となり、全国に誇れる「市民が組織・運営するクラブづくり」を目指す方向を検討すべきだと考えます。</li> <li>・このクラブは、市内にある民間スポーツクラブやチームとも連動し、市内のスポーツ情報を集約し、有機的にスポーツ振興とスポーツ運営を推進するヘッドクォーターの役割を果たす。</li> <li>・クラブハウスを併設し、スポーツを愛好する市民がこぞって集まれる場とする。</li> <li>・このクラブを中心として、スポーツ指導者の育成と継続的な教育を行う。</li> <li>・すでにあるスポーツ振興事業団は、体育館を中心とした施設の管理・運営が主な事業で、初心者を対象とする教室の開催など一定範囲のスポーツ振興には寄与しているが、広く市民スポーツをプロデュースする機能までは果たしていません。当然、得意分野を活かし、クラブとこの事業団との機能的な連携も大切。</li> </ul> </li> </ul>	基本施策Ⅳ（2）③ スポーツをつうじた元気な地域づくり	総合型地域スポーツクラブについては、ご意見の趣旨等も含めて、基本施策Ⅳ（2）③「スポーツをつうじた元気な地域づくり」のなかで、全国的な傾向、設置状況の推移をふまえながら検討していきたい。	
<p>2. 市内の各地域単位のスポーツクラブづくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆市内の各地域（学校単位、コミセン、町会など）を母体とした組織             <ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに小学校単位で、野球やサッカーなどのチームが組織され、主に有志の親や卒業生の親たちによって指導・運営がされている。これらクラブを母体に、小学生だけでなく中学、高校、若者、シニア、シルバー世代まで、年代別のチームを組織・活動し、地域間で交流する仕組みを作る。</li> <li>・現在、野球、サッカーなどは別々に活動し、競技を超えた交流は薄いように思われる。これを各地域の総合スポーツクラブとして組織し、より交流を深める。</li> <li>・各地域クラブごとに、テニス、卓球、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、インディアカ、ジョギング、ウォーキングなど、その地域で盛んな（あるいは熱心な愛好者がいる）種目を選び、運営する。自分が住む地域に希望の種目がない場合は、地域を超えて参加できるようにする。</li> <li>・各地域にあるコミュニティセンターは現在、それほどスポーツ関連の施設を併設してはいない。将来、建て替え、改修にあたっては、コミセンに地域クラブの活動拠点にできる施設を含むよう検討することも一案であろう。（例：一部コミセンにあって人気の高い卓球場や、屋外バスケットコートなど）</li> <li>・市は、各クラブの運営、各年代の大会開催などをサポートする。必ずしも主催である必要はなく、上記のNPO法人がその統括的な立場で事務局機能を担う。</li> <li>・市は各年代の市内大会の実施、その積極的な報道によって地域内の親交を育み、同時にスポーツを通じた市民相互の幅広い交流を促進する。</li> <li>・ボランティアで行われているこれらの現状のクラブ運営においては、指導者の経験・善意に依存し、必ずしも合理的な指導が行われぬ可能性も危惧される。市は、上記NPOに委託するなどして、クラブ運営の指針（役員選出、日常活動のルールやマナーづくり等）、指導者の教育等のビジョンや仕組みを整備する支援を行う。</li> </ul> </li> </ul>	基本施策Ⅲ（2） 人的資源の活用	ご意見の「市内の各地域単位のスポーツクラブづくりを推進」していくためには、それを担える人的資源の活用が不可欠であると考えています。そうした考えから、「ヒト」の視点に注目し、人材の発掘や担い手づくりとともに、現在がんばっておられる方々を表彰していくことなどをつうじて、地域で活動する人への支援を目指したいとの想いから、基本施策Ⅲ（2）「人的資源の活用」を掲げました。		



	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
	<p>3. 市民が一体となって参加・応援できる象徴的なスポーツ・イベントの創設。                      ☆年に一度、ないしは季節ごとに、市民の多くが参加し、注目・応援しあうスポーツイベントを創設する。</p> <p>例1) 『オール武蔵野』対『オール三鷹』の野球、サッカー等の対抗試合                      少年(少女)、中学、一般、シニアなど、各部門で対抗戦を実施。                      広く市民に大会を広報し、こぞって応援する雰囲気盛り上げる。                      『オール武蔵野』は姉妹都市のチームなどとも定期戦を行い、サッカーや野球の日本代表のような、市内をひとつにする役割を担う。</p> <p>例2) 全国から参加者を募り、武蔵野市を舞台に開催する全国大会の開催                      ・種目の候補は、『ドッチビー』など、武蔵野で生まれたスポーツ『紙ヒコーキ』など、日ごろから多くのファンが市内に集まっている種目。中央公園の広い原っぱという特性を活かせる種目、など。                      ・老若男女を問わず参加でき、一体感の昂揚が期待できる競技(リレーなど)。</p> <p>例3) 仮称『武蔵野グリーンピック』の主催・運営                      インターネットと連動した参加型のスポーツムーブメントを武蔵野市から発信・創設する                      ・陸上の100m、水泳の100m等、タイムでランキングの作成できる種目を選び、武蔵野グリーンピック(仮称)という名の、参加型の大会を創設する。                      ・これは、誕生時のオリンピックと同じ目的(平和への願い)を持ち、しかしオリンピックとはは好対照の運営方法で行う世界的なムーブメント。参加者は無制限。自分の住む場所で参加でき、毎日でも参加できる。計測した記録を『武蔵野グリーンピック』事務局のHPに登録するだけ。総合ランキングと年齢別のランキングがたちどころに出てくる仕組み。                      ・定期的に、武蔵野陸上競技場で一堂に集まるイベントを行う。</p>	<p>基本施策Ⅲ(1)③                      地域の学校・民間企業等の活用</p> <p>基本施策Ⅳ(2)②                      地域とのつながり・一体感の形成</p>	<p>現在、「むさしのスポーツ2008」等イベントなどをつうじて、市内の大学や企業等とも連携し、武蔵野市全市での市民参加型のイベントを開催しており、こうした取組については、基本施策Ⅲ(1)③「地域の学校・民間企業等の活用」のなかに位置づけ、施策の展開を図っていきたくと考えています。                      ご提案の例などを参考にさせていただきつつ、今後検討していきたく考えます。</p>	
M 2/4	<p>4. 武蔵野の名を冠し、武蔵野をベースに活動するトップレベルのチームを市と市民がどう支援・応援するかの具体的方針の提示                      ☆いま武蔵野市には、幸運にもラグビー・トップリーグの横河武蔵野アトラスターズとサッカーJFLの横河武蔵野FCがあります。一部市民は熱心に応援していますが、まだ「市民のチーム」として広く認知され、応援されているとはいえない状況です。せっかく「武蔵野」と冠したチームですから、市は市民とともにもっと応援する道筋を示すべきではないでしょうか。いずれのチームも、運営的には独立していますから、市がすべきことは応援の体制、競技環境の整備などです。                      ☆サッカーの横河武蔵野FCに関しては「将来Jリーグ入りを目指して欲しい」との一部市民の期待もあります。そのためには、一定要件を満たす競技場の整備が必須条件です。武蔵野市が『スポーツ振興計画』の中で、その方向を支持し目指すのか否かを示す必要はあるのではないのでしょうか。                      ☆市内に本拠を置く有数の企業でもあり、上記2チームを支援する中心母体でもある横河電機株式会社はじめ、賛同の意志を持つ企業とも提携・協議し、冒頭に示した統合型スポーツクラブの創設、クラブハウスを併設した施設の建築・運営等についても、実現に向けた話し合いが期待されます。それを目指すビジョンを振興策の中で示してほしい。</p>		<p>市民が一体となった応援については、基本施策Ⅳ(2)②「地域とのつながり・一体感の形成」のなかで、地元チームや選手等の紹介をつうじて地域への愛着や一体感の醸成等を目指したいと考えています。</p>	
	<p>5. 日常的にスポーツが楽しめる公園、施設づくり                      ☆友だち同士や親子で、スポーツ遊び(草サッカーや草野球)のできる公園づくり                      草野球ができる公園、サッカー・ゴールのある公園、キャッチボールのできる公園などを整備。乳幼児だけでなく、小中学生の思い切り遊べる公園作りをする。                      ・既存の公園を一部改修するなどして、安全な環境を作る。                      ・公園を目的別に設定し、安全な使用を確保する、など工夫する。                      ☆野球、サッカーなどができるフィールドづくり(現状では足りません)                      ☆2の項で書いたとおり、コミセンにその機能を一部新設する可能性も要検討。</p>	<p>基本施策Ⅲ(1)①                      身近な公園や道の活用</p>	<p>ご意見の内容については、基本施策Ⅲ(1)①「身近な公園や道の活用」を掲げています。</p>	
	<p>6. 学校のスポーツ施設の充実・改善と新しい校庭デザインについて                      市内の小中学校の校庭および体育館などの施設開放は、小中学生の余暇活動、大人たちのスポーツ活動に場を提供する重要な拠点です。しかし現状、利用してみると、多くは遊具などが混在し、必ずしも安全なデザインでなく、広さも不十分です。今後10年の計を立てるなら、市の重要なスポーツ施設の一翼を担うこれら施設を抜本的に見直し、整備・改修する計画も盛り込むべきではないでしょうか。</p>		<p>市立小・中学校の施設開放は、市民のスポーツ活動になくてはならないものです。学校施設の整備にあたり、できる範囲での提案は今後も続けていきますが、学校施設は教育活動のため必要なものを安全に配慮し設置しており、施設開放はその状況の中で工夫し展開すべきものと考えます。</p>	

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
	<p>【市内メディアの活用と運動 情報の共有と報道による市民意識の向上】</p> <p>1) 今年7月、『月刊武蔵野スポーツ新聞』を創刊。11月末に第5号を発刊しました。今後は『武蔵野スポーツ新聞』も含め、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞など、武蔵野に支局を置くメディアと連動し、身近で細やかな市内スポーツ情報を発信・共有する努力も大切。</p> <p>2) パークシティテレビ、FMむさしのとも連動し、大会の実況・放映を行うなど、メディアが連動して盛り上げるビジョンづくりも、市や上記NPOが働きかける。</p> <p>3) 《武蔵野スポーツ大賞》などの賞を制定・運営・表彰を行う際にも、市内メディアの協力・連携が必要。</p>		<p>現状でも各マスコミに向けたプレスリリースや情報提供、取材協力も行ってありますが、スポーツ振興に向けた情報のあり方については、関係機関等との連携も含めて今後さらに検討していきたいと考えます。</p>	
M 3/4	<p>【スポーツ振興のスタンスと哲学について】</p> <p>なぜスポーツに取り組むことが重要なのか？ 個人は本当に、スポーツをすると心身が健康で豊かになるのか？ 社会は本当に、スポーツを振興すると、活性化するのか。いかにすれば、社会を活性化 するスポーツ振興が可能なのか。その哲学とビジョンを明確に提示し共有する必要がある。 「スポーツをすれば健康で豊かになる」との前提で振興計画が策定されているが、いま スポーツ界は、「スポーツ選手や関係者が様々な問題を起こす」という深刻な現実に直面し ている。高校野球の特待生問題に端を発したプロ野球の裏金問題。大学スポーツに始まり、 社会人、プロテニス、大相撲でも発覚した大麻事件。サッカー、野球部内等でのいじめも 後を断たない。スポーツ指導者による暴力も同様。これらは各個人の不幸事のように言わ れ続けているが、もはやそれが組織的な問題、スポーツ界が構造的に抱える課題である との認識が高まりつつある。10年先には、この問題への回答が不可避になるだろう。 振興計画の策定にあたっては、こうしたスポーツの深刻な現状を直視した上で、それ でもなぜスポーツを振興するのかを語り合い、方向性を共有する必要がある。 武蔵野市が全国に先がけて、今後のスポーツ振興のあり方を示し、実現に向けて動き 出す。それは大いなる挑戦であり、全国に範を示す取り組みになる。</p>	基本理念	<p>本計画での基本理念をご参照ください。 なお、ご意見で述べられているような、社会問題化している「スポーツの 深刻な現状を直視した上で」の「哲学」まで踏み込んで語ることについては、 本計画よりも、スポーツに関するメディア等での問題提起や議論のほうが相 応しいと考えます。</p>	

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
M 4/4	<p>《武蔵野市が全国に先がけて示し、実践するスポーツ振興の哲学（案）》</p> <p>その第一は、『文武両道』の徹底。 その第二は、『日常生活とスポーツの融合』。</p> <p>その根底にあるのは、「勝負は過程であり、スポーツを極める姿勢こそ、心技体を磨く基本であり、スポーツに取り組む意義である」という明確な指針です。 文武両道と言えば、最近「勉強もスポーツもできる」といった軽い意味で理解されている。本来は「文と武が両輪になって人は力を発揮する」という意味でした。「偏差値が高く、運動神経もいい」といった、相対的な意味では決してありません。絶対的な道を極め、心で動く、頭の命令より先に行動が起こっている、無私無欲の人間を育む取り組みこそ、武道の原点であり、社会がスポーツを容認し推進する前提ではないでしょうか。</p> <p>現在のような一部の勝利者が名声を得、巨額の富を得る。その特権的立場を奪い合うこと、あるいはそうしたエリートに群がって一部企業やメディアが恩恵を得るような仕組みのスポーツならば、行政が加担する必要はありません。</p> <p>なぜスポーツをするか、どうすればスポーツが文武両道を実現し、人生のそして社会の豊かさをもたらすか。上に要約した哲学・根拠・方法については、拙著『宇城憲治師に学ぶ 心技体の鍛え方』（草思社刊）に明確に書かれています。ぜひご参照ください。</p> <p>《究極の提案： 日本独自の道を探る、スポーツ研究所の創設》</p> <p>上記の研究と実践に取り組む公的機関はいまのところ、ほとんどありません。拙著の監修者であり、世界各地に熱心な弟子を持つ武術家・宇城憲治師が指導を担当しておられる京都大学アメリカンフットボール部・水野彌一監督が教育委員長を務める京都市では、この取り組みを始める準備が進んでいるようです。</p> <p>東日本ではまだその拠点はあります。宇城師は過去6年にわたり、武蔵野市を本拠に毎月『東京宇城塾』を開講し、広い分野の志ある社会人に指導をしてくださっていました。中には、国内外で活躍するプロ選手、五輪選手もいます。サッカー日本代表・岡田監督も遠路・武蔵野市に足を運んでこられる塾生のおひとりです。武蔵野市と上記の取り組みはすでに深い縁があるわけです。</p> <p>欧米のスポーツ科学を追随するスポーツ科学研究所は全国各地にあります。しかし、本来の日本人の体型、習慣、文化、伝統的特性を活かす《日本人の心技体の鍛え方》を徹底して研究・実践する組織はありません。それは《スポーツと日常、スポーツと人間形成》がどう結びつき、スポーツの持つ可能性を把握し実践する本来は重要な基礎研究でもあります。とくに戦後、欧米の発想に影響され、日本人の心技体の文化は断たれる流れにあります。その弊害が、昨今の様々な青少年の問題や深刻な事件等に表れていると指摘する声が各方面からあがっています。日本人が本来の日本人らしい姿勢と目的を再認識してスポーツを日常的にすることが、社会と個人を再生し、活性化する重要な切り札になると、スポーツライターの立場で強く感じています。</p> <p>今後10年の計を提示し、スポーツ振興の新たなビジョンを描くにあたって、ぜひこうした発想を持ち、その拠点を武蔵野に作り、市民の心身の増強と《文武両道の実現》に取り組むことを協議していただきたい。全国にこのムーブメントを発信する意義は深い上、世界中からも学びたい人々が集まってくるでしょう。</p> <p>施設の用地は、旧泉幼稚園跡地ほどの広さで充分です。いま空き地になっているその場所に、『文武両道を実現する研修施設（道場、教室、研究室、図書室など併設）』を建設し、日々主に子どもたちを（もちろん大人たちも）対象とする稽古と研修、実践を行う施設の建設と運営を提案します。 以上</p>		<p>今後もさまざまな考えをもつ方々と広く意見交換をしていきたい。</p>	

	ご意見	中間報告の施策の分類	見解（案）	備考
N	<p>武蔵野市の総合型スポーツクラブの発足の提案</p> <p>平成12年度に策定された国の「スポーツ振興基本計画」の中で、生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境整備のための重点施策として「2010年（平成22年）までに、全国の各市区町村において、少なくとも1つは総合型地域スポーツクラブを育成」という目標が掲げられています。</p> <p>今回、武蔵野市が策定した、「スポーツ振興に関する計画」を進めるに際しての策定委員会の設置は、武蔵野市民がスポーツを通じて、健康の維持や増進、心や身体の健全な発達を促進することになると思います。</p> <p>私は、2000年フランスのラグビーのプロリーグ（ディビジョン1：コロミエとのプロ契約締結）に日本人選手として初参戦しました。</p> <p>コロミエは地域のクラブ組織の中のトップチームとしてチャンピオンシップを戦うチームとして活動し、地域の皆様に、親しまれ、応援され、愛されているチームでした。</p> <p>チームを支えていたのは、地域に存在する企業がスポンサー（コロミエでは、大・中・小企業の145社からスポンサードを受けていました）となってクラブの運営を支えるなど、まさに、行政、企業、地域住民が三位一体となって共に活動していく運営システムが構築されていたのです。</p> <p>地域密着型のクラブチームの存在は欧州では当たり前のように社会に溶け込んでおり、地域を代表するトップチームの存在は住民の求心力の大きな一助を担うことになるのです。</p> <p>そこで、私は、老若男女すべての人々が自分のレベルに合ったスポーツを楽しみ、家族のコミュニケーションの一助を担い、大人の社交の場としても必要不可欠である、総合型スポーツクラブの存在は武蔵野市においても是非、実現に向けた活動に取り組んでいくべきことではないでしょうか？</p> <p>決して、ヨーロッパの総合型スポーツクラブの真似だけではない、あくまでも、日本が育んできた、それぞれの地域の風土や文化、慣習を考え、日本のオリジナルとしての総合型スポーツクラブ発足の実現に向けてです。</p> <p>まさに、その実現は、地域を組成する一人ひとりが夢や、生きがいを見出し、豊かなライフスタイルの自己実現が可能になることと私は強く確信しています。</p> <p>いずれにしても、スポーツは人生や暮らし、生活をより豊かに充実したものにして行くために欠くことのできない文化的価値なども有しているので、是非、武蔵野市の皆様に、総合型スポーツクラブの発足に向け、より豊かな地域社会の実現に向けて、未来を見据え、共に、語り合いながら活動に取り組んでいくことを提案したいと思います。</p>	<p>基本施策Ⅲ（1） 既存の施設や場の活用 基本施策Ⅲ（3） 現行プログラムを活かした工夫 基本施策Ⅳ（2） スポーツによる地域の活性化</p> <p>基本施策Ⅳ（2）③ スポーツをつうじた元気な地域づくり</p>	<p>武蔵野市には、スポーツが可能な施設や場が各所に整備されており、また子どもから高齢者までスポーツに関するプログラムが多数実施されています。こうした既存の資源の有効活用を進めていくことを基本としていく考えから、基本施策Ⅲ（1）「既存の施設や場の活用」、基本施策Ⅲ（3）「現行プログラムを活かした工夫」を位置づけて、スポーツ振興を図っていきたくと考えています。また、スポーツ振興をつうじて地域コミュニティの活性化も図っていきたくとの考えから、基本施策Ⅳ（2）「スポーツによる地域の活性化」を掲げ、地域での人々の交流等の促進を図っていきたくと考えています。そこでは、スポーツクラブに併設されているクラブハウスといった限られた空間での交流というよりも、さらに広がりのある商店街等を含めた街なかでのスポーツをつうじた人々の交流を目指していきたくと考えています。</p> <p>こうした施策の展開が、道路・公園等の都市基盤が整備され、良好な住宅地や商店街が形成されている武蔵野市らしいスポーツ振興計画のあり方であると考えています。総合型地域スポーツクラブが掲げる理念を武蔵野市に適した内容で、武蔵野市らしさを大切にしながら実現していきたくといった考えが基本にあります。</p> <p>なお、総合型地域スポーツクラブについては、ご指摘のとおり武蔵野市を拠点とする企業によるトップレベルのチームが存在することから、こうした企業との連携等も含めて今後、全国的な傾向、設置状況の推移をふまえながら検討していきたくと考えます。また、こうした内容を基本施策Ⅳ（2）③「スポーツをつうじた元気な地域づくり」のなかに位置づけていきたくと考えています。</p>	<p>男性</p>